

北関東 防衛局 広報

2022.12
Vol.
113

北関東防衛局広報

目次

— CONTENTS —

- 2 令和4年版防衛白書の刊行
- 3 百里基地で米軍再編に係る訓練移転を実施
- 4 第3回木更津駐屯地に関する協議会開催
- 5 令和4年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式開催
- 6 わが町紹介（～群馬県高崎市～）
- 7 地方防衛局技術系業務説明会を開催
- 8 防衛パネル展開催（館山市、入間航空祭）
- 9 事務所便り（～横田防衛事務所～）
- 10 北関東防衛局からのお知らせ・お願い
 - ・レーザー光線の航空機への照射は犯罪です
 - ・ドローンの規制についてのお知らせ
 - ・横田飛行場周辺の高さ制限 ・在日米軍従業員募集



武蔵御嶽神社（写真提供：青梅市）



編集・企画発行：北関東防衛局総務部広報室 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1
<https://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/>

管轄区域：東京都・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・新潟県・長野県



令和4年版 防衛白書の刊行

防衛白書は、わが国の防衛の現状と課題及びその取組について広く内外の周知を図り、その理解を得ることを目的として毎年刊行されています。

令和4年版防衛白書は、わが国を取り巻く安全保障環境の変化などを踏まえ、次の点について新たに記述しています。

- ・ロシアによるウクライナ侵略が国際情勢に与える影響
- ・米中競争と台湾をめぐる情勢、台湾の防衛戦略・軍事力
- ・科学技術の発展が安全保障に与える影響
- ・新たな国家安全保障戦略等の策定に向けた取組
- ・防衛力強化加速に向けた取組
- ・経済安全保障に関する取組

また、抑止力を強化するための取組や、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域や先端技術分野での取組について内容を強化しています。その他、書籍サイズの小型化・軽量化を図るほか、別冊についてストーリー性やビジュアル性を重視する内容としています。



防衛白書HP



表紙については、AIアートによるデザインを採用し、「ハイブリッド化した安全保障上の挑戦に革新的なアイデアと最先端技術で打ち勝つ」をコンセプトに、新しい領域を切り拓いていくという防衛省・自衛隊の決意と強固な防衛意思を表現しました。



「はじめての防衛白書」は、小学校高学年以上の方にもわかりやすく説明することを目的として作成しました。防衛省ホームページで公開しています。

はじめての防衛白書HP



防衛白書の地方公共団体等への説明

北関東防衛局では、防衛省の各種施策について、地方公共団体等の理解を深めるとともに、防衛省・自衛隊と地方公共団体等との連携強化を図るため、当局管内1都7県414箇所の地方公共団体等に対し、地方協力本部や関係部隊等と連携して、防衛白書の説明を毎年実施しています。

【栃木県への説明】

【埼玉県への説明】

【千葉県への説明】



【左から扇谷局長、福田知事】

【左から扇谷局長、大野知事】

【左から2番目熊谷知事、右から2番目扇谷局長】

百里基地で米軍再編に係る訓練移転を実施

令和4年11月10日から18日までの9日間、航空自衛隊百里基地（茨城県小美玉市）において、米軍再編に係る訓練移転（日米共同訓練）が実施されました。

今回の訓練には、米空軍第35戦闘航空団（青森県三沢市）からF-16戦闘機12機、航空自衛隊第7航空団（百里基地）からF-2戦闘機8機が参加し、百里沖空域等において戦闘機戦闘訓練等を行いました。

米軍再編に係る訓練移転とは

平成18年5月の再編実施のための日米ロードマップに基づき、二国間の相互運用性の向上及び米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減することを目的として実施しています。

平成18年度以降、米軍の嘉手納、三沢及び岩国飛行場から、航空自衛隊の千歳、三沢、百里、小松、築城、新田原飛行場及びグアム等へ航空機の訓練移転を実施しており、今回で127回目（国内66回及びグアム等61回）、北関東防衛局管内の百里基地においては、令和3年12月に続き11回目の訓練移転になります。



北関東防衛局が訓練を支援

【百里基地内に北関東防衛局現地対策本部を設置】

北関東防衛局では、この訓練移転の実施に際して、百里基地内に現地対策本部を設置し、百里基地や茨城県警察等の関係機関との緊密な連携の下、関係自治体との連絡調整や訓練の実施に係る情報提供、米軍への物品等の調達支援等を行いました。また、基地周辺5箇所に職員を配置し、訓練移転中における航空機騒音の実態を把握するための騒音測定を行いました。

【自治体関係者による視察】

11月9日には、百里基地及び米軍の協力の下、関係自治体の方々による訓練視察を実施しました。この視察においては、当局から「日米二国間の相互運用性の向上」と「米軍飛行場周辺地域における訓練活動の影響の軽減」という本訓練移転の目的や今回の訓練の概要説明の他、F-2及びF-16戦闘機の展示や、第35戦闘航空団の飛行隊長による部隊及び機体の説明が行われました。

このような取組みにより、訓練の円滑な実施等のための総合的な支援を実施するとともに、地元住民の方々の安全・安心の確保に努めました。



鉾田市長（右端）の質問に回答する飛行隊長（左端）



F-2（左側）、F-16（右側）を後ろに記念撮影

第3回 木更津駐屯地に関する協議会 開催

令和4年10月24日、木更津市役所において、第3回木更津駐屯地に関する協議会が開催されました。本協議会は、陸上自衛隊V-22オスプレイの暫定配備に当たり、木更津市の要望を受け、令和2年に設置されたもので、木更津市長、木更津市議会議長、基地政策特別委員会委員長、北関東防衛局長、木更津駐屯地司令ほかが一堂に会し、木更津駐屯地に配備されている航空機の運用に関することについて、地域の皆様からいただいたご意見等を踏まえた質疑応答等が行われました。



(左側から、更谷司令、扇谷局長、渡辺市長、重城議長、永原委員長、石井木更津市企画部長)

扇谷局長からは、市側からの質問に対して国の考えを丁寧に回答するとともに、本年7月の木更津市長ほかによるV-22への体験搭乗についての報告の他、木更津市に対して行っている基地周辺対策事業を紹介し、引き続き、基地の運用から生じる障害の防止・軽減に最大限努力していく旨の説明を行いました。

また、更谷司令からは、木更津駐屯地に配備されている航空機の運用に際して、周辺への騒音軽減に努めるとともに、日々の点検を確実に実施して飛行の安全を確保するとの説明もありました。

北関東防衛局としては、協議会の場などを通じ、地域の皆様の様々な声を真摯に受け止め、引き続き、駐屯地周辺との調和が図られるよう、各種施策にしっかりと取り組んでまいります。



(令和2年7月に到着した1機目のV-22)



(木更津駐屯地)

令和4年度 在日米軍従業員永年勤続者表彰式 開催

令和4年11月16日、米空軍横田基地において令和4年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式が爽やかな秋晴れのもと、行われました。

今回の表彰式は、横田基地、多摩サービス補助施設、赤坂プレス・センターで永きにわたり勤務された従業員の方々の功労を称えるために日米共催で実施されたものです。

令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大している状況から式典の開催は見送ることとなりましたが、今年度はマスク着用及び手指の消毒をはじめ、密にならないよう席の配置にも工夫を施す等、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで、米空軍の協力を得て横田基地内で3年ぶりの開催となりました。

表彰式では、扇谷北関東防衛局長、第374空輸航空団司令官ラダン大佐、AAFE S横田エクステンジジェネラルマネージャー デフェリス氏、来賓を代表して東京都都市整備局基地対策部高橋統括課長代理からの祝辞に続き、空軍代表の鈴木由美子さん、AAFE S代表のF・E・ヴィララマさんに対し扇谷局長から表彰状が、ラダン大佐、デフェリス氏からそれぞれ記念品が授与されました。



扇谷局長



ラダン司令官



デフェリスGM

最後に被表彰者を代表して第374支援中隊の内野厚さんが答辞を述べ、華やかな中にも厳肅な雰囲気にも包まれながら式典を終えました。

今年度は、40年勤続者1名、30年勤続者61名、20年勤続者73名、10年勤続者37名の合計172名の皆さまが受賞されました。



受賞者と来賓者との記念写真
(前列右から7番目が扇谷局長、8番目がラダン司令官)

つなぐ都市から中心都市へ ～変革する高崎～

高崎市は、東京から約100km、群馬県の中西部に位置し、古くは中山道随一の宿場町として『お江戸見たけりゃ高崎田町』と言われるほど賑わい、商業、交通の要衝として発展してきました。群馬県の郷土かるた「上毛かるた」には「関東と信越つなぐ高崎市」と詠まれています。

現在、高崎市は、上越・北陸新幹線をはじめ高崎線など4本のJR線や私鉄、高速自動車道3路線、国道5路線が集中する全国有数の内陸交通の拠点性を活かし、高崎アリーナ、高崎芸術劇場など集客力のある施設の整備や高崎駅周辺再開発などを進めており、「つなぐ都市」から首都圏と北陸・上信越を結ぶ「中心都市」へ「変革」しています。

高崎芸術劇場

さまざまな音楽や舞台芸術の公演に対応した2,027席の大劇場、ロックコンサートや演劇・舞踊・能などの多様なパフォーマンスが可能なスタジオシアター等のほか、リハーサルやレッスンのためのスタジオもあり「鑑賞と創造」が一体化した複合的な芸術劇場です。



高崎アリーナ

日本一を決める大会や世界トップレベル選手が集まる選手権など、様々なスポーツイベントを開催。

人気ミュージシャンの大型コンサートも開催しています。

防衛施設周辺対策事業

高崎市新町地域に、防災拠点としての機能を併せ持った体育館「新町防災アリーナ」を防衛省からの補助を受けて整備しました。アリーナやランニングコース等の体育施設に、災害時に屋外から直接2階や屋上に避難できる勾配の緩やかな避難スロープ、屋上に空から救助活動ができるヘリポートなどの防災機能を備えています。

高台や高い建物が少ない同地域の避難場所、防災拠点として、住民の安心・安全に大いに寄与する体育館となっています。



文・写真とも高崎市に寄稿いただきました。

地方防衛局技術系業務説明会を開催

令和4年9月1日、2日に北関東防衛局において、技術系国家公務員を目指す学生に対して、調達部が行っている防衛省自衛隊等の施設整備事業について業務説明会を行いました。

自衛隊等の施設は飛行場や、司令部庁舎、整備場、隊舎、浴場等様々な施設があり、通常は事務仕事や訓練、教育、生活の場として機能しますが、大災害等発生時には救援活動の後方支援に加え、一時的な周辺住民の避難、救援物資等の集積・輸送拠点等として利用されます。

これら施設の計画・設計・建設は、その特殊性からすべて防衛省が主体となって実施しており、主に設計や建設に携わることが出来るのが地方防衛局調達部の技術系職員（防衛技官）になります。

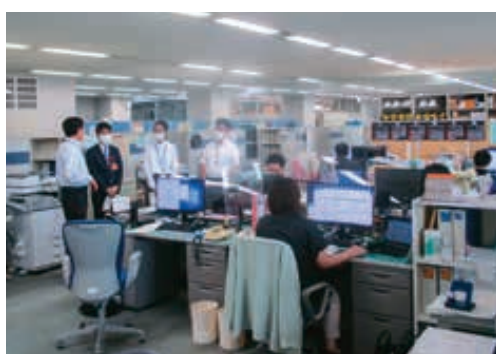


パワーポイントを用いた業務説明

北関東防衛局の組織における調達部の位置付けや管轄区域と主な防衛省自衛隊施設の紹介、調達部で行っている施設整備業務の概要、施設整備予算の執行計画、調達部の技術系職員の役割及び活躍、防衛施設の建設工事の事例について説明を行いました。

自衛隊施設の建設工事現場とのライブ中継

海上自衛隊下総航空基地及び航空自衛隊入間基地において、各々の調達部の技術系職員がタブレット端末を用いて局の説明会場との間でライブ中継を行い、施設整備中の建設工事現場の作業状況や、完成して間もない建物についても建物内部の詳細や概要について説明等研修を行い、施設整備に対する理解を深めていただきました。



調達部の職場見学

調達部の調達計画課、事業監理課、建築課、土木課及び設備課の各執務室を見学していただき、執務環境や執務状況を肌で感じてもらうと共に各課の業務内容等について説明を行いました。

また、北関東防衛局では、働き方改革の取組みとしてハイブリッドワークを実践したテレワーク、オンライン会議、研修等を実施しており、ネットワーク環境の整備を進めていることを説明しました。

学生と調達部技術系職員との座談会

学生との座談会では、防衛省自衛隊等の施設整備事業に対して興味深いことや、転勤などの勤務環境に対する質問等様々な発言があり、調達部の技術系職員からは、防衛省では働き方改革を推進し、勤務環境の改善が図られており、本人の希望を尊重した人事異動、資格取得の推進、適切な超過勤務の管理など詳細について説明するなど活発な意見交換が行われました。



防衛パネル展開催 館山市・入間航空祭

【館山市】

令和4年10月3日から10月17日の間、千葉県館山市JR館山駅自由通路（市民ギャラリー）において、防衛パネル展「自衛隊の大規模災害等対応」を開催しました。自衛隊の災害派遣は、自然災害（台風・地震等）のみならず、新型コロナウイルス、鳥インフルエンザや豚熱、山林火災、急患輸送など多岐にわたっています。パネル展では、災害派遣に関する基本的な考え方（緊急性・非代替性・公共性など）、陸海空自衛隊の初動態勢（ファスト・フォース）などや都道府県知事等からの要請を受けてからの部隊の派遣・撤収までの流れ、過去5年間における災害派遣の実績及び不断の取り組みについて紹介しました。

また、令和元年台風19号の被害に対する海上自衛隊館山航空基地隊員の復旧活動状況について展示を行いました。

（上）館山駅市民ギャラリー展示状況

（下）令和元年台風19号災害派遣パネル



【入間航空祭】

令和4年11月3日、3年振りに航空自衛隊入間基地で開催された入間航空祭において、令和4年版防衛白書パネル展を開催しました。防衛白書では、厳しさを増す安全保障環境とこのような環境変化を踏まえた防衛省・自衛隊の取組について、掘り下げてわかりやすく説明する趣旨で、新たに特集FOCUS 1～4が設けられています。パネル展では、FOCUS 1「直面する安全保障上の課題」、FOCUS 2「平和を生む「抑止力」」、FOCUS 3「新たな領域や分野における取組」、FOCUS 4「望ましい安全保障環境の創出」及びこれらと関連する図表等をパネル化し展示するとともに、防衛白書の配布やパネルを題材としたクイズの実施、お子様を対象としたゲームを行い、大変好評をいただきました。



クイズに取り組む来場者たち

ゲームやクイズのポップ

自治体施設や自衛隊駐屯地／基地でのイベントの場を活用した防衛パネル展の開催及び展示パネルにつきましては、その都度Twitter（@mod_kitakanDB #北関 #防衛パネル展）に掲載しています。皆様のお越しをお待ちしております。

青梅の冬の風物詩、青梅マラソン大会

横田防衛事務所は、都心から西へ約40km離れた福生市の住宅街に所在しています。市街地の西側には一級河川が多摩川が流れ、豊かな水に育まれた自然があちらこちらに残る街並みには武蔵野の面影を感じることができます。

更に西を見渡すと緑豊かな奥多摩の山々が連なり、周辺には奥多摩湖、御岳溪谷、鳩ノ巣溪谷など多くの景勝地があり、週末には四季折々の彩色豊かな自然を見に訪れる人で賑わいます。

そんな西多摩において、例年2月に開催されるのが青梅市の冬の一大イベントである青梅マラソン大会です。

本大会は昨年、一昨年と新型コロナウイルス流行の折、開催が見送られましたが、令和5年2月19日に3年ぶりに開催される運びとなりました。

青梅マラソン大会はマラソンの普及と強化を目的に、誰でも参加できる大衆マラソンとして、昭和42年に「青梅報知マラソン大会」として始まりました。

当初は300名程度の規模の大会でしたが、当時は一般市民が参加できるマラソン大会は珍しかったことから徐々にその名が知られてゆき、市民マラソン大会の草分けとして全国的にも知られるようになりました。今では「おうめで会おう」を合言葉に、全国津々浦々から1万人超のランナーが青梅に集まります。

本大会はJR青梅線河辺駅に近い東青梅4丁目をスタートし、青梅街道沿いを奥多摩方面に向かって進み途中で折り返すコースとなっており、30kmの部と10kmの部が設けられています。本大会のコースは高低差があるのが特徴で、スタート地点から30kmコースの折り返し地点の高低差は85.8m、特に30kmコースは途中アップダウンが繰り返されるため、フルマラソンに比べ距離は短いとはいえ、チャレンジし甲斐のあるコースとなっています。国内外のフルマラソンや駅伝で活躍する著名なランナーも毎回出場しており、一流のランナーの走りを間近で見ることができるのも青梅マラソンの特徴です。往路と復路が同じ道なので、ゆっくりとしたペースで走っていても、折り返してきた一流ランナーの走りをすることができます。

また、毎回スペシャルゲストが招待されており、今回の大会ではシドニーオリンピック女子マラソン金メダリストの高橋尚子さんが登場、参加者にエールを送る予定となっています。

残念ながら今大会の一般エントリーは終了していますが、早春の青梅路を走ってみたい方は次回大会への参加を検討してみてもはいかがでしょうか。



(写真提供：青梅市)

北関東防衛局からのお知らせ・お願い

レーザー光線の航空機への照射は 犯罪(注)です。

東京都内、神奈川県内、沖縄県内等で飛行中の航空機に対してレーザー光線を照射するという事案が多発しています。

墜落等による大惨事をもたらしかねない大変危険で悪質な犯罪ですので**決して行わないで下さい。**



■レーザー光線による操縦士への影響(イメージ)

照射している人を見かけた方は**110番通報**をお願いいたします。

(注) 平成28年12月、改正航空法施行規則が施行され、規制が強化(レーザー光線を航空機に向かって照射する行為自体に罰則(50万円以下の罰金))。

刑法の威力業務妨害罪(3年以下の懲役又は50万円以下の罰金)航空危険行為処罰法の航空危険罪(3年以上の有期懲役)等に該当する場合あり。

平成27年12月及び平成28年1月に威力業務妨害罪で逮捕例あり。

防衛省、外務省、警察庁、国土交通省

■内容についてのお問い合わせにつきましては下記に御連絡願います。

北関東防衛局 企画部地方調整課連絡調整室 (東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、新潟県、長野県を管轄) 防衛省本省 地方協力局在日米軍協力課渉外班	(代表) 048-600-1800 (内線:2225、2236、2215) (直通) 03-5362-4851
---	---

ドローンの規制についてのお知らせ

小型無人機等飛行禁止法により指定されている**自衛隊施設/米軍施設その周辺地域**(周囲約300m)の上空における**ドローン等の飛行は、原則として禁止されています。**

これに違反した場合、次のような措置/罰則もあります。

- 警察官等による安全確保措置
- 最大懲役1年/罰金50万円

周囲おおむね300mの地域の上空(イエロー・ゾーン)

自衛隊施設/米軍施設の敷地・区域の上空(レッド・ゾーン)



※このほか、**航空法上の無人航空機の飛行禁止空域**においてドローン等を飛行させる場合、夜間にドローン等を飛行させる場合等には、別途、**国土交通大臣の許可又は承認を得る必要があります。**

対象防衛関係施設及び飛行をさせたい場合の手続の詳細については、**防衛省HP**をご参照ください。

<https://www.mod.go.jp/j/presiding/law/drone/index.html>



防衛省・外務省・警察庁・国土交通省

お問い合わせ先 防衛省 北関東防衛局 企画部地方調整課連絡調整室
【代表】 048-600-1800 (内線: 2225、2236、2215)

横田飛行場高さ制限について

飛行場には航空機の安全な運航を確保するため、航空機の離着陸の経路に当たる一定の空域に飛行場の規模に応じて建物等の高さ制限が設けられています。

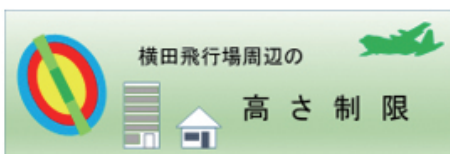
横田基地ホームページ(<https://www.yokota.af.mil/>)では、横田飛行場周辺の建物等の高さの制限を地図で確認できるサービスを提供しています。

利用方法

北関東防衛局ホームページ

(<http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/>)

トップページ右側のバナーをクリックすると利用方法が参照できますのでご利用ください。



高さ制限HP



在日米軍従業員募集

独立行政法人駐留軍等労働者
労務管理機構(エルモ)では、
在日米軍基地で勤務する従業員
の募集を行っています。

興味のある方は、エルモホームページをご覧ください。
下記の支部にお問い合わせください。

※求人情報提供メールサービスに登録すると、希望する求人情報がホームページに掲載される都度、お知らせメールが送信されますのでご利用下さい。



【Twitter】

令和3年4月より、求人情報等の募集関連情報を定期的に発信しています。ぜひ、フォローをお願いします。

アカウント名

【在日米軍従業員求人情報(エルモ) @LMO_recruit】

Twitter



【窓口応募受付・お問い合わせ先】

エルモ横田支部管理課管理二係

住所: 東京都昭島市田中町568-1 昭島昭利第2ビル4階

電話: 042-542-7663

担当施設: 横田飛行場、ニューサンノー米軍センター、赤坂プレス・センター他

<https://www.lmo.go.jp>

L M O 検索

エルモ
ホームページ



求人情報
本州・九州の
基地



★「北関東防衛局広報」のバックナンバーは、北関東防衛局のホームページでご覧になれます。

<https://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/kouhou/kouhou.html>

北関東防衛局広報 検索

広報誌
バックナンバー

